

学校だけじゃ自分らしさは見つからない？

地域とつながる学びで、未来の自分を発見しよう！

高校生活は、机の上で勉強するだけの時間ではありません。

阿賀黎明高校では、地域と連携した教育活動を通じて、社会と自分をつなぐ体験ができます。

たとえば、地元企業やNPOと協力したプロジェクト活動や、地域の人たちと一緒に進めるイベント企画など、学校を飛び出して「リアルな学び」に触れられる機会が豊富です。

これらの活動は、ただ楽しいだけではありません。

自分の得意なことや新しい挑戦を通して、将来どんな自分になりたいかを見つけるきっかけになります。

また、地域の人たちとの交流で得られる経験は、教室だけでは学べない大切な力を育みます。

学校の枠を超えた学びがあるからこそ、自分の世界がぐんと広がります。

「自分らしさ」を見つけたいと思ったら、地域とともに学ぶ阿賀黎明高校で一步を踏み出してみませんか？

01 総合的な探究の時間

地域の人やモノと自分の興味関心をかけ合わせたプロジェクトを企画・実践します。

先輩のプロジェクトテーマ例

- 裏庭畑化プロジェクト：寮の裏庭×農業やってみよう！
- 動物カフェ：ヤギを飼っている農家×動物が好き！
- 糶と地元産野菜でピザ・スムージー作り：阿賀町の発酵文化×美容が好き！



02 各教科での授業

(例) フードデザイン

地域の食文化を学び、高校生の視点・発想を生かしたメニュー開発に繋がります。今までは、エゴマや糶を使ったメニュー開発・提供を行いました。



03 地域学

総合的な探究の時間よりもっと幅広くもっと深く地域のモノ・コトを学ぶとともに、地域の人たちと一緒に企画・実践をする授業です。

先輩の企画例

- 阿賀町産の竹で作ったイカダで常浪川を下ってみよう！
- 商店街の空き店舗に高校生の居場所をつくる！
- 阿賀町の魅力を伝えるCMをつくる！



地域とつながるってどんな感じ？

実際に地域で実践活動をしたり、地域の方と関わったりした先輩の声を聞いてみよう



町を歩いていると知り合いになった地域の人に声をかけてもらえて嬉しい

地域の人と仲良くなれたので半日だけでなくもっと交流したかった



『畑をする体力がなくなってきた』と聞いたので手伝ってみたい



01 子ども食堂プロジェクト

令和5年度入学生
せいだ まな
清田 茉那さん
せき はすみ
関 羽純さん



阿賀町内の飲食店『お茶の間 久太郎』で
開催されている子ども食堂で
運営ボランティア



プロジェクトのテーマを 子ども食堂にした理由は？

まな 中学生のときにSNSで子ども食堂の存在を知ってから「自分もやってみたい」とずっと思っていました。テーマを考えている時期に社会福祉協議会の方から「久太郎さんが子ども食堂を始めるよ」と聞いて、ボランティアに行くことにしました。

はすみ 私は小学生の頃、学童に通っていたのですが、「勉強してから遊ぶ」というようにやるのが決まっている過ごし方を少し窮屈に感じていました。もっと自由で、子どもが気軽に過ごせる居場所があればいいなと考えていたんです。そんなとき、まなさんが「子ども食堂をテーマにしたい」と言っていて、「じゃあ、それを居場所にしてみよう!」と二人でプロジェクトを始めました。

活動中に楽しいと感じる瞬間は？

はすみ 普段は子どもから遊びに誘われることはほとんどないのですが、子ども食堂では「遊ぼう!」と声をかけられたり、急にクイズを出されたりします。子どもたちが積極的に関わってきてくれる瞬間は、本当に楽しくて嬉しいですね。

まな 料理を作ってお客さんのところに運ぶと、子どもたちが必ず「ありがとう」と言ってくれるんです。それがとても嬉しいし、やりがいを感じます。私たちはボランティアで料理を運んでいるだけなのに、感謝されるのが新鮮で、「ただやっているだけなのにこんなに喜んでもらえるんだ」と実感します。

活動を通じての変化や発見は？

まな 意外にも自分は人と関わることが好きなんだと気づきました。元々はあまり自分から話しかけるタイプではなく、話したことがない相手と距離を置きがちでした。でも、子ども食堂でお客さんや地域の人たちと接するうちに、「初めての人も意見を交わしたり遊んだりするのは楽しい」と感じられるようになりました。最初は緊張したけれど、一度勇気を出して自分から関わってみると、「意外といけるかも」と思えて、今では初めましての人にも抵抗なく自分から話しかけています。

はすみ 実は、私は小中学生に対して少し苦手意識がありました。例えば、子どもから少し生意気なことを言われたときに、前は「嫌だな」と思っていたのですが今では「かわいいな」と思うようになったんです。子ども食堂で社会が得意な小学生にクイズを出されて私が答えられなかったことをいじられたときに「無邪気でかわいいな」と思っている自分に変化を感じました。

今後やってみたいことは？

まな このボランティアを私たちの代で終わらせたくありません。普段地域と関わる機会が少ない人たちも誘って、後輩たちと一緒に活動を続けていきたいです。仲間を増やしてプロジェクトをもっと大きくし、地元の人たちとのつながりをさらに深めたいです。

はすみ 二つあります。ひとつ目は、将来おばあちゃんになったら夏休みや春休みなどの長期休み中に、1日中開けられるような子ども食堂の運営です。もうひとつはアフリカでボランティアをすることです。アフリカを旅しながら料理を作ったり、一緒に遊んだりする活動を小学生の頃から「いつかやってみたい」と思っています。プロジェクトを通じて「私でもできるかも」と思えたので、アフリカでのボランティアもいつか実現できそうな気がしています。

中学生へのメッセージを 教えてください

はすみ 小規模な学校は、大規模な学校よりもチャンスが多いと思います。少人数なので「やってみる?」と言われやすく、自分の努力が周りに届きやすい環境だと感じます。

まな 小規模な学校でも、自分のやりたいことは実現できます。中学生のとき「子ども食堂をやってみよう」と思っていましたがお金や現実的な問題に直面して「無理だろうな」と諦めていました。でも、今こうして実際に活動できています。「大きな学校じゃないと無理」と考えるのではなく、身近な環境でも挑戦できることを伝えたいです。



02 学生ボランティア団体コウノトリ

令和5年度入学生
ときえだ てんな
時枝 天和さん



地域の方の「困った」を高校生が
ボランティアで解決



プロジェクトを始めたきっかけは？

1年生の総合的な探究の時間で行った福祉体験で、高齢者の方から「スマホの使い方が分からない」「家の片付けがなかなか進まない」といった困りごとを聞いたことがきっかけでした。他の学年の授業内容を聞くと「地域の人と交流はするけど、課題解決には取り組んでいない」と知り、「どうして実践に繋がらないのだろう？」という疑問を持ちました。それがこのプロジェクトを始める原動力になりました。

活動はどのように進めていきましたか？

社会福祉協議会の方と話しているときに「地域の困りごとを解決する学生ボランティア団体をつくりたいんですけど…」と相談してみたら、「できるよ」と教えていただきました。最初はペットボトルキャップの仕分けボランティアから始め、社会福祉協議会の方に教えていただいた活動機会を活かして、他のメンバーを誘いながら少しずつ活動を広げていきました。

印象に残っている場面はありますか？

スマホ講座を開催したとき、自分がスマホを教えた地域の方が「できた！」と嬉しそうに言ってくれた瞬間です。それだけでなく、別の机にいた方が「ここが分からないんだけど」と聞きに来ると「ちょうど今教わったところ！」と

言って、自分が教えた方が教えている姿を見ました。コウノトリが目指す「助け合い」が目に見えて実感できて本当に嬉しかったですし、その連鎖が面白いと感じました。

また、福祉体験のときに地域の方からお土産にお菓子やジュースをいただき「こんなに歓迎されるんだ」と驚きました。地元の神奈川では、顔見知り以外の人と話す機会が地域であまりないので最初は少し戸惑いましたが、阿賀町の人々の温かさを感じました。この町では普段から人と人との関わりが自然にあるので、大歓迎を素直に受け入れられるんだなと思いました。

活動を通しての変化や発見は？

地域の方々が活動を応援してくださって、活動を行うたびに「またやってほしい」と声をかけていただくので「高校生でも地域の役に立てるんだ」と思っています。周りの人たちの「できるよ」という言葉に支えられて行動してみたら本当にできたという経験が自信に繋がっています。また、コウノトリの活動を通じて知り合った地域の方が、町で声をかけてくれたり、活動が新聞に載ったときに連絡をくださったたり、文化祭に来てくださったりと、町全体に友達や仲間が増えたような感覚があり、すごく嬉しいです。



仲間を集めたり、周りの人に頼るのが得意に見えます。元々そうだったのですか？

全然得意ではなかったです。実際、頼っているというよりも、自分がやりたいことを周囲に話している感覚です。話を聞いてもらい、やりたいことが実現できそうかを色々な方に相談していたら、自然と頼る形になっていたのかもしれない。

中学生へのメッセージを教えてください

私は神奈川から新潟に来ましたが、どこであっても高校生活は案外同じだと感じています。1年生の頃は寮生活や新しい環境にワクワクしていましたが、だんだん慣れてくると、それが当たり前の日常になります。だからこそ、自分で「何かやってみよう」と行動を起こさないと、どこにいても同じ毎日が続くだけだと思います。

やりたいと思ったことは、小さな一歩から挑戦してみてください。最初は「自分には無理だな」と思っても、周りの人に相談すれば可能性がぐっと広がるかもしれません。私も、スマホ講座のような活動を「やってみよう」と周りの人に話してみたことで、プロジェクトが動き始めました。

阿賀黎明高校には、家族や先生以外にも、地域の方・寮のハウスマスター・黎明学舎スタッフのような、同級生ではない大人たちと自然に話せる環境があります。この学校だからこそ、新しいことを始めるチャンスがたくさんあります。ぜひ気軽に「こんなことしてみたい」と声を上げてみてください。



03 高校生の活動をサポートしている地域の大人の声

阿賀町社会福祉協議会
たにがき さとこ
谷垣 智子さん



高校生の地域活動の様子を見て、
どのように感じていますか？

高校生が「何かやりたい」と話したときに、地域の人々が「やろうよ」と自然に伝えられる関係性が築かれていると感じます。たとえば、時枝さんのコウノトリの活動は大きな動きのように見えるかもしれませんが、私にとっては自然な流れで生まれた活動です。

阿賀黎明高校では、短期間で集中的にプロジェクトを進めるのではなく、高校3年間、あるいは阿賀町内の中学校から進学した生徒にとっては中高6年間を通じて、地域の人々との出会いや経験を積み重ねながらプロジェクトが生まれています。そのため、今はまだ「やりたいこと」が明確でない生徒も、授業を通じて地域と関わる中で「好き」や「気になる」と思える種を見つけやすい環境になっていると感じます。

谷垣さんや地域の方々にとって、
高校生はどのような存在でしょうか？

地域が中学生や高校生の存在を求めているように思います。実はここ2年ほどで、阿賀町における高校生のイメージが大きく変わってきたと私は感じています。以前は、日常的な接点が少ないために「近寄りづらい」と感じる人もいましたが、今では「地域のことを一緒に考え、一緒に活動できる存在」として見られるようになってきました。「今の高校生って、こんなに一生懸命に取り組むの?!」と驚く声も多く聞かれます。

地域活動を始めたい中学生への
メッセージをお願いします。

阿賀町には、高校生と地域の方々が互いの得意分野を活かし合える環境があります。「高校生と一緒にならできるかも」「高校生も何か考えているかも」といった声も聞こえてきます。地域の方々に「受け入れてもらう」という姿勢ではなく、「ともにつくる」という対等な関係性を大切にしながら、何かに挑戦してみたい中学生の皆さん、ぜひ一緒にあなたらしい“なにか”を見つけてみませんか？

阿賀黎明高校について

生徒数が少ない小規模校かつ普通科ながらも、
2年次からは学類ごとに授業が違うため幅広い選択肢がある学校です。
そのため、先輩方は4年制大学、専門学校、就職と幅広い進路に進んでいます。

また、少人数だからこそ生徒一人ひとりの
「やりたい」を叶えるチャンスが多くあります。
自分のペースで自分らしさを見つきたい中学生の皆さんを歓迎しています。

\ 学校生活の様子を日々更新中! /



阿賀町について

新潟県東蒲原郡阿賀町津川。
かつては会津藩の河港として栄え、航路と陸路の結節点として人と人が出会い、つながりました。
よく晴れた朝など一面に川霧が立ち込めるこの地では、糴や味噌、酒などの発酵文化が花開き、
豊かな自然と共に暮らしをつくってきました。

しかし、日本全体で起きている人口減少の波は、阿賀町にも押し寄せています。

「住人が少なくなってしまう。5年後、この伝統行事はなくなっているかもしれない」
「郷土料理のレシピはあるけれど、作れる人がもういなくなってしまった」

ショッピングモールやチェーン店はないかもしれない。でも、阿賀町にしかない歴史や文化、景色があります。
テスト終わりに、昔ながらの中華料理屋さんで打ち上げごはん。帰り道に川へ立ち寄り、みんなで水きり大会。

阿賀町だけにある、阿賀町だからこそその楽しみをこれからにつなぎたい。
少しでもそう感じてくれる中学生の皆さん、ぜひ一度阿賀町に遊びにきてください。



授業以外でも地域活動をサポートする大人たちがいます!

阿賀町が運営している公営塾「黎明学舎」や学生寮「緑泉寮」にいるスタッフも地域活動をサポートします。

「何か活動したいけれど、何から始めていいのかわからない…」
「地域の人と初めましてで仲良くなれるか不安…」

そんな時は興味のあるような地域活動を紹介したり、スタッフも一緒に地域に行ってみたり、
高校生の「やってみたい」を形にする提案をしています。



地域活動や学校の様子をもっと知りたい方は現地見学会へお越しください!

毎回、現役高校生が中心となり内容を考えている
まなび体験会(現地見学会)。
地域での体験活動をしたり、ワークショップに参加したりと、
普段、阿賀黎明高校生が得ている学びを体験することができます。
ぜひ一度お越しください!

個別での学校見学も
受け付けております。
ご自身の中学校を通じて
高校へお問い合わせください。



お問い合わせ
はこちら ▶



新潟県立阿賀黎明高等学校

〒959-4402
新潟県東蒲原郡阿賀町津川361番地1
Mail:school@agareimei-h.nein.ed.jp
Tel:0254-92-2650

阿賀町まなびの森交流館 緑泉寮

〒959-4409
新潟県東蒲原郡阿賀町京ノ瀬4851
Mail:agareimei.mirai@gmail.com
Tel:0254-92-5460

阿賀町公営塾 黎明学舎

〒959-4402
新潟県東蒲原郡阿賀町津川426-3
Mail:reimeigakusya@gmail.com
Tel:0254-92-7724